



◀ 女山大根の歴史やパワーの話聞いた後、バイキング
式で食べ放題の料理を楽しむ参加者

旬の女山大根のおいしさに感動！

西多久自慢の女山大根まつり

復活した伝統野菜“女山大根”の美味しさやパワーを多くの人に知ってほしいと、西多久町を考える会は2月7日、『第4回女山大根まつり』を開きました。

「1日だけの手づくりレストラン」会場となった西多久公民館には、県内外から訪れた約50人が地元のふるさと情報館「幡船の里」や郷土料理研究会のメンバーが調理した女山大根メニュー15品やデザートを堪能しました。

福岡県内から訪れた夫妻は「テレビの情報番組を見て女山大根を知り、今日やっと本物に出会え、感動しました。びっくりするほどおいしい味で、2時間半かけて来た甲斐があり、15本も購入しました。次回は友達も誘って来ます」と大満足。アンケートでは「天ぷら」「白和え」「幡船汁」「ゼリー」の順に人気でした。

この日行われた重量当てクイズでは伊万里市内の参加者にズバリ賞が、生産者の品評会では川浪民子さん（藤川内）に多久市長賞が贈られました。

子どもたちの要望で実現 交通安全高まる

東多久町内の通学路3か所で横断歩道整備

一昨年12月、東部小6年生の24人（現在中学1年）が市役所を訪れ、横尾市長に提案した『光る横断歩道』が検討され、昨年中に東多久町内3か所の通学路で整備されました。

提案の様子は、昨年2月号本誌でも紹介していましたが、暮らしと政治のつながりを学ぶ社会科学習の一環で、東多久を住みよい町にするため課題と改善点を調べたテーマの1つが、交通安全対策。この提案が国や県、市などの関係部署に届き、国道（別府一区内）と県道（羽佐間区内）の横断歩道2か所で反射率の高い塗料が施工され、歩行者もドライバーもより分かりやすくなりました。また、市道（山の上区内）では、横断歩道があることを示す道路標示線を青・白・オレンジの3色で施工。ライトが当たると車線が立体的に浮き上がって見えるため、ドライバーへの注意喚起が高まりました。

その現場を訪れた落合浩太さん、小松悠矢さん、藤瀬実鈴さん、古川茜さんは「提案した声が届いて、危険や事故防止に役立てたら嬉しい」と話していました。



▲横断歩道があることを示すカラーの道路標示線

2/19

2/21

颯爽とした走り！
選手のみなさんお疲れさまでした

— 第50回県内一周駅伝大会 —

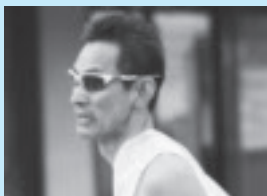


船津静哉監督を中心に健闘を誓う選手団（2月2日）

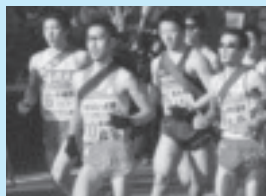
13市郡の精鋭ランナーたちが県内を走り抜け、熱戦を繰り広げた『第50回記念県内一周駅伝大会』が2月19日～21日までの3日間、全35区間のコースで行われました。



■11区 末岡裕和選手
（嬉野市嬉野中央タクシー前）



■5区 石田清人選手
（佐賀市役所諸富支所前）



■基山町役場前をスタートした鶴紘寿選手



■13区 永井隆幸選手
（11年ぶりの走りを終えて）



■8区 山田直哉選手
（芦刈町三王崎交差点付近）



■2区 藤井康輔選手
（JAさが上峰支所前）